

環境報告書に対する監事監査意見書

Auditors' Review

農環研では、環境報告書を開示する内容の信頼性を高めるために、農環研の監事による監事監査を経て環境報告書を発行しています。

独立行政法人農業環境技術研究所「環境報告書 2013」に対する監事監査意見書

平成 25 年 10 月 16 日

独立行政法人農業環境技術研究所

理事長 宮下 清貴 殿

独立行政法人農業環境技術研究所

監事 水谷 順一

監事 堀 雅文



水谷、堀の両名は、独立行政法人農業環境技術研究所作成の「環境報告書 2013」について、業務監査の一環として行っている環境監査の結果と併せて監査を行い、協議の上、本監事監査意見書を作成しました。以下の通り報告いたします。

1、環境監査の目的

当研究所は、事業そのものが環境に関する研究であります。よって、当研究所の作成する「環境報告書 2013」は、理事長はじめ全職員の業務執行の結果そのものであると認識し、監事監査の対象としました。監査の目的は、同報告書の信頼性を独立した立場から監査し、その結果を報告することです。

2、監査項目と監査方法

(1) 環境報告書の自己評価体制とその機能の有効性について

- * 監査報告書作成担当部署以外の評価部署の評価体制とその実態
- * 評価部署における評価項目と評価内容

(2) 監査報告書の内容の信頼性について

業務監査の一環として、環境マネジメントシステムの有効性・機能性および法令・規則の遵守状況を、関連会議の出席、重要資料の閲覧、現場往査等の方法で監査を行っています。その業務監査の結果と、その基礎になる関連資料と本環境報告書の内容（環境マネジメント、各種環境パフォーマンス数値等）との整合性について監査しました。

3、環境監査の結果

(1) 環境報告書の自己評価体制とその機能の有効性について

環境報告書作成部署とは別の部署である監査室が環境報告書を評価する体制をとり、「環境報告ガイドライン(2012 年度版)」（環境省）に基づき、「環境会計ガイドライン(2005 年度版)」（環境省）を活用し、適確且つ忠実に自己評価していることを認めます。

(2) 環境報告書内容の信頼性について

環境マスタープラン(2011～2015 年度)に基づき 2012 年度の取組成果は「産業廃棄物の削減」を除き概ね目標達成しています。産業廃棄物の増加は「職場の安全」を最優先した老朽機器の更新や薬品類の貯蔵見直しによる一過性の原因です。老朽機器や薬品類の安全で適切な管理体制が構築されれば落ち着くでしょう。節電は夏季電力使用量の大きい諸施設を適切に運転停止し、毎日電力ダイヤモンド値を全職員に表示して節電意識を高めました。古い集中排気型スクラパーは 9 台全てを撤去して小型個別排気型スクラパーに更新、照明は LED 灯への一部切替え、蛍光灯の人感センサーを用いた無駄の排除対策等、諸施策を実施して「CO₂ 排出量削減」目標を達成しています。節電はこの他、受変電設備改修時に「高効率変圧器」への更新や研究本館のブラインド整備による空調負荷軽減があります。地球環境に関しては、フロン規制遵守から特定フロン使用した大型の冷蔵庫を代替フロン仕様へ更新しています。グリーン調達に関しては「特定調達品目調達の目標(100%)」があります。特に電子計算機は、Windows Xp のサポート終了時期も考慮して、OA 機器品目の電子計算機(61%)、プリンター(88%)を 100%に向けて更なる、改善向上を期待しています。

以上。